

新池 (しんいけ)

位置図



諸元

貯水量	1,200	千m ³
満水面積	26.8	ha
受益面積	150	ha
堤高	15.1	m
堤長	710	m

県道三木綾南線を東から高松市香川町の川東口にかけて進むと道の南側に広がるのが「新池」です。

新池が完成したのは、寛文年間(1661～1672年)と伝えられています。この地域は、高低差が大きく、水の便に乏しかったのでかんがいにも困っていました。矢延平六は浅野村の窮状を見かねて、やのべへいろく香東川の流れを引いてため池を築造しようと考え、工夫を凝らし努力を重ねて本池を完成させました。

ところが、新池の築造は高松城を水攻めにするためなどと、藩主に告げ口をした者があって、平六は裸馬にさせられ阿波に追放されてしまいました。農民達は大恩ある平六の行方を探しましたがついには探し出せず、そこで平六の功績をたたえて高塚山山頂に新池神社をまつりました。そして毎年旧暦の8月3日に近い日曜日には、平六への感謝を込めて「ひょうげ祭り」が行われます。

「ひょうげ」とは、おどけた、ひょうきんという方言で、農作物で作った神具や衣装を身につけた侍などに扮装した行列が、新池までの2kmを面白おかしく練り歩き、ため池に神輿を投げ込んでフィナーレを迎える約3時間の祭礼です。

今ではため池にちなむ奇祭として、毎年多くの人々でにぎわいます。



新池



ひょうげ祭りの様子